

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスきらり 中安井ルーム		
○保護者評価実施期間	2025年 8月 4日		2025年 8月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数) 19人
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		2025年 9月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自立に向けての生活能力(清掃活動、炊事、買い物、着替え、洗濯物畳みなど)の向上をめざす取り組み。自分でできることを増やしていき、「できた!」という実感を得られるよう支援。	「おてつだい」としてはじめはスタッフと一緒に、徐々に自分ひとりできるように。工程を細分化して少しずつ難しくしていく。また、できたときは褒めて、感謝の気持ちを伝える。	言語による説明だけでは難しい児童に対しては手順について写真などを用い、より取り組みやすくしていきたい。
2	活動プログラムの充実	夏休みなどの長期休暇や祝日については必ず行事を入れる。季節の行事など毎年恒例のものについてはアップデートしながら継続。「祭りの参加」など地域との交流や生活に根付いた支援が行われるよう努めている。新しい取り組みについても取り入れていく。	今後も魅力的な事業所であるために、職員が各自自分の得意な分野について見識を深めたり、幅広く情報を集めたりしていく。一部の児童だけが楽しめるものではなく集団で楽しさを共有していける取り組みを目指す。
3	事業所ホームページのブログ、LINEなどによる積極的な活動内容の発信	活動の詳細を写真つきで(写真については事前にホームページ掲載の許可をとった児童のみ掲載)ブログで発信。また、連絡帳以外に保護者向けLINEでも活動報告を行っている。	今後もネットリテラシーに気を配りつつ、事業所での様子を保護者の方に向けて頂くとともに多くの方にきりでの活動を知って頂くようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対する支援プログラム(ペアレントトレーニング)が十分ではない。保護者会がない。	ペアレントトレーニングについては情報提供に留まっている。また、共働き家庭が多く保護者会や勉強会などの場を設定するのが難しい。	保護者からのご要望に沿い、情報収集や提供を行っている。しかし、少数ではあるが保護者会の開催を希望されている方もいるので前向きに検討していきたい。開催については保護者の就労状況も踏まえ考えていきたい。
2	地域との交流が少ない。	事業所の校区や地域住民との関わりが薄い。また、自事業所の行事に地域住民を呼ぶなどの取り組みも行うことができていない。	日頃より近隣の催しなどについての情報を集め積極的に参加していく。地域の方々との交流の場を増やしていくことを今後の課題とし、検討していく。
3	地域学校との情報共有。	特にセルフプランのお子さんについては保護者からの聞き取りや、送迎時の簡単な申し送りにとどまってしまうことが多い。	積極的にこちらから働きかけ、学校での様子(学習やお友だち関係など)とデイでの様子(個別支援や生活スキルなど)について密に情報共有を行い(担当者会議や事業所訪問など)お互いに補完しあえる関係を目指したい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日					回収数			
こどもデイサービスきらり 中安井ルーム		2025年 10月 25日					利用児童数	29人	回収数	19
環境・体制整備	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17			2		活動スペースは十分に確保されている。安全面に配慮し全体にマットを敷いたり、学習用の机などの配置にも配慮している。		
2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14	1		4		介護福祉士2名・保育士1名有資格者配置 児童指導員:常勤4名 非常勤 2名 あいさかいサポートリーダー1名 在籍中			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17			2		段差などなく、トイレも非常に広く、手すりを設けるなど過ごしやすい環境を整えている。			
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15	2		2		スタッフが子どもの様子が見渡せるような広い空間になっている。また、児童が来る前には事業所内の清掃消毒作業を行っている。気持ちを落ち着けるためのスペースも用意。			
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	1			年6回の内部研修に加え、外部研修を受講する機会を設け日々支援について研鑽している。また、毎朝こどもの特性や出来事についてスタッフ間で共有している。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	1			支援プログラムは事業所ホームページにて公表。内容に沿った支援を心掛けている。			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19				アセスメントをとり、保護者からの聞き取り、事業所にて個別支援会議を行い、個別支援計画案の作成を行い、児童と保護者のニーズに応えられるよう作成している。			
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19				ガイドラインの項目を踏まえ、子どもの支援に必要な内容の設定を行っている。			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19				個別支援計画、専門的支援計画書に沿って支援。会議やミーティング等で共有しつつ個々の課題にあった支援を心がけている。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	3			個別支援計画に基づき個々に対応した活動を準備、支援。また、こどもたちの主体性を取り入れた取り組みなども行う。			
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	4	1	5	福祉秋祭り、ふれあい音楽祭など地域行事に積極的に参加。市の体育館やグラウンドを利用したり、外出先で公園を利用するときなど地域の子どもたちとの交流がある。			
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19				契約時に重要事項説明書等を用い、事業所の基本方針や支援内容等説明を行っている。また不明な点は随時対応している。			
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19				その都度支援計画を提示し説明。			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	5	4	6	研修会や支援プログラム等の実施はない。今後ご要望があれば検討していきたい。また、保護者の方が知りたいことや相談事などがあった場合には情報を収集し提供している。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	19				連絡帳にその日の様子を記入。また、帰り送迎時には職員から直接お伝えもしている。あわせてご家庭での様子や体調面についてお聞きしている。その日の様子を写真(LINE)で送ることもある。			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12	5	1	1	送迎時に児童の様子について伝えるようにしている。その際、相談等については事業所に持ち帰りスタッフ間で共有したり話し合いの場を持つようにしている。必要に応じて家庭訪問を行っている。			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	1						
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	4	5	8	保護者同士の交流の機会がほしい。進路等の悩み事など先輩保護者の意見が聞きたい。			
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	2		1	契約時に虐待防止についてや苦情受付窓口についての説明を行っている。その他の相談については家庭訪問をしたり、直接事業所にきていただくなど迅速に対応している。				

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	1			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	2			ホームページでは日ごろの活動の様子を写真付き(事前に掲載許可をいただいた児童)で報告している。行事予定や業務に係る事項についてはLINEや書面を通して定期的にお伝えしているがより浸透するよう努めたい。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17	1		1	契約時に、重要事項の中で説明を行う。個人情報の取扱いが適正に行われるよう研修やミーティング等で職員への周知をはかっている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19				各マニュアルはすぐに目を通すことのできる場所に配置。訓練等の実施については予定表およびホームページで発信している。今後も積極的に発信していきたい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18			1	様々な想定の上で隔月で避難訓練を行っている。また、非常用の持ち出し袋や非常用トイレ、非常食、非常用の電源等の確保も行っている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19				普段から死角を作らないよう心掛けている。机や棚の上には上らないよう配置に工夫をし怪我の防止対策を行う。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19				事故等があれば速やかに保護者や関係機関に報告。迅速な対応を心がけている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19				今後も保護者、児童ともに安心して楽しみに来所していただける支援を心がけていきたい。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19				
	29	事業所の支援に満足していますか。	19				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもデイサービスきらり 中安井ルーム		公表日		2025年10月25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		活動スペースは十分に確保されている。安全面に配慮し全体にマットを敷き、机などの配置にも配慮している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		介護福祉士2名有資格者配置 児童指導員:常勤4名 非常勤 2名 昨年度あいさかいサポートリーダー研修受講し、リーダー1名在籍		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		段差などなく、トイレも非常に広く、手すりを設けるなど過ごしやすい環境を整えている。また、利用児童の特性にあわせ、設備の配置変え等も行う。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		スタッフが全体を見渡せ、子どもの様子が見渡せるような広い空間になっている。また、気持ちを落ち着けるためのスペースも用意している。毎朝、清掃消毒を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		完全な個室ではないが、3方向に壁があり落ち着けるスペースを用意。必要に応じて使用することができる。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		よりよい支援に向けてPDCAを意識し、取り組んでいる。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者からのご意見があれば、ミーティングや会議等で対応策を話し合い実践に向けて取り組んでいる。その成果についても随時報告をしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		ミーティングや面談等職員が個々の意見を発言する機会がある。発言しやすい風通しのよい環境づくりを心がけており、その内容をよりよい支援のために改善にむけて検討している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	現時点で第三者による外部評価は行ってはいないが、保護者の方の意見を取り入れ業務改善に繋げている。	第三者による評価は行ってない。今後の検討課題とする。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		事業所内で隔月で内部研修を実施。堺市消防局通信指令課による救命講習や堺市による虐待防止研修、介護技術についてなど行う。その他発達障害についての基礎研修など外部研修にも積極的に参加している。	個々に受講した研修については報告書を作成しミーティング時などに報告しているが、全スタッフにより研修内容が還元されるようにしていきたい。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		今年度より事業所ホームページにて公表。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		アセスメント、保護者からの聞き取り、事業所内での個別支援会議を行い、個別支援計画書の作成を行う。その後、保護者の承諾を得た後、個別支援計画の作成。保護者に説明した後署名をいただいている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		毎月、作成対象者について全職員参加での支援会議を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		事業所内で個別支援会議を行い、作成段階から参加し内容を共有。計画に沿った支援を実施している。	非常勤職員についてはすべての会議への参加が難しいため、意見を吸収、共有していくための取り組みが必要。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		日々の行動観察などによるアセスメントを中心に確認している。フォーマルアセスメントについては医療機関等で受けたものを保護者から提供をうけ確認。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		ガイドラインの項目を踏まえ、子どもの支援に必要な内容の設定を行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		毎月の職員会議や日々のミーティング、管理者会議、各種委員会など様々な角度からプログラムの立案を行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		月ごとに文化活動・運動活動とテーマを決めてを計画し活動。個々の課題に合った支援をおこなっている。また職員得意分野を生かす取り組みなど新しい活動も取り入れている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別活動と集団活動については専門的支援計画書にてより詳細に作成。支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝実施。前日のこどもの様子を全スタッフで共有。また当日予定しているプログラムや送迎の確認も行う。学校休業日などについては児童が帰った後に行う。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		緊急を要したり重要な事案などについては支援終了後に必ず職員間での共有をはかる。それ以外については翌朝のミーティング時におこなう。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		利用時の様子は支援経過に記録。連絡帳や業務日誌にも併せて記録する。連絡帳は複写式で1枚は事業所保管、もう1枚は家庭用となっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		基本は6か月に一度行う。こどもの発達状況や保護者の意向等の変更があった場合や、支援会議にて必要性を感じた場合はその都度見直す。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		ガイドラインの項目を踏まえ、子どもの支援に必要な内容の設定を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		会議には原則、児発管が参加するようにしているが、参加にあたって事前の会議で職員の意見を反映できるようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		必要に応じて各種機関と連携して支援を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		利用開始時には直接赴き（学校都合により電話の場合あり）送迎時の注意点など確認を行う。普段の送迎時にも学校での様子や体調面の申し送りを行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		児童発達支援から利用している児童に関しては直接情報共有を図っている。小学校から新たに利用される児童に関しては相談支援員を介して情報を共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		担当者会議を行い移行に向けての情報共有、および支援内容等の情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		センターの言語聴覚士の方をお迎えし「コミュニケーションの理解と支援」について研修をしていただく。事業所の悩みや相談についても助言をいただく。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7		地域の行事（福祉秋祭りやふれあい音楽祭）に積極的に参加。地域公園や地域体育館を利用するなど事業所外のこどもたちとの交流を図っている。	今後も地域の人たちとの関わり合いの中で社会性を育んでいけるよう積極的に活動の場を広げていく努力をする。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		堺市障がい者自立支援協議会への参加はない。	今後検討していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		相談については送迎時や電話でその都度相談に応じる様になっている。その場では対応できない場合は事業所に持ち帰り、職員全体で検討、共有している。必要に応じて家庭訪問もしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		研修会などは実施していないが保護者からの要望等があれば情報提供を行うようにしている。	外部研修などがあれば必要としている保護者にお伝えしていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明している。	一層わかりやすい説明に努めていきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		アセスメント、保護者およびこどもからの聞き取りの機会を設け、事業所内での個別支援会議を行い作成を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、同意をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		送迎時や電話などその都度ご相談に応じていただいている。必要に応じてご自宅に訪問させていただいたり、その他機関に間に入っていただくなど支援を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	父母の会や保護者会等の開催は行っていない。	保護者の就労状況やニーズなどを鑑みながら検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	契約時に虐待防止についてや苦情受付窓口についての説明を行っている。その他の相談については電話や家庭訪問、直接事業所にきていただくなどして迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	ホームページでは日ごろの活動の様子をブログや写真で報告している。行事予定や業務に係る事項についてはLINEや書面を通して定期的にお伝えしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	契約時に、重要事項の中で説明を行う。個人情報の取り扱いが適正に行われるように研修ミーティング等で職員への徹底をはかっている。個人情報が書かれたファイルなどは鍵付きの書庫に保管。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	コミュニケーションツールを用いるなど配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	行っていない。	地域に開かれた事業所になるよう努めていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	各マニュアルはすぐに目を通すことのできる場所に配置。訓練等の実施については予定表およびホームページで発信している。火災、地震、大雨、不審者等各種想定した訓練を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	業務継続計画（BCP）策定済。災害発生に備え、各種備品の確保、避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	てんかん発作等の持病のある児童や服薬している児童については保護者を通して確認を行っている。また変更がないか定期的に確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	現在食物アレルギーのある児童（1名）については保護者からの指示により対応している。今後必要に応じて対応していく。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	安全管理に必要な研修の受講（「障がいのある子どもに対する蘇生法を学ぶ」R7.10など） 日々環境整備や点検を実施。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	契約時に説明している。取り組みについてはその都度お便りやSNSなどで報告している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	ヒヤリハットを感じた時、すみやかに所定の用紙に記録し提出。毎朝のミーティング時に全スタッフで共有し、再発防止に向けて対応策を話し合っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	虐待防止委防止委員を中心に毎年研修を実施している。また虐待の芽チェックリストを実施し日ごろの支援の振り返りを行ったりケース検討を行う。外部研修にも参加。	ひきつづき委員会を中心に虐待防止の取り組みを行っていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	契約時に保護者に説明している。身体拘束適正化委員会の指針に沿って、具体的に必要性が懸念された場合については保護者に了解を得たうえで支援計画に記載するようになっている。	職員全体で子どもたちの様子を共有し、研鑽し、身体拘束を行わなくていい環境や対応を考えていきたい。	